

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「発見・挑戦・創造」のもと、一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助・指導を行う。

〔 発見：新たな自分の発見、挑戦：新たな自分への挑戦、創造：新たな自分の創造 〕

2 学校の特徴

本校は、普通科Ⅰ部・Ⅱ部、総合福祉科Ⅰ部からなる昼間の定時制単位制高校である。前期・後期の2期制で、進路や興味・関心に合わせて多数の科目群から授業を選択でき、他部での履修や通信制科目の受講も可能である。また、ボランティア活動や就業体験、各種検定試験、高卒程度認定試験などを弾力的に単位認定し、多様な学びをサポートしている。

少人数クラスにより、一人一人の個性や能力に応じたきめ細かな指導を展開しており、支援の必要な生徒に対しては、SCやSSW、通級指導担当教員をはじめ外部機関とも連携し、学校全体で情報共有しながら支援を行っている。

進路状況については、生徒数が少ないため年度により傾向に差はあるが、進学と就職の生徒数はほぼ同じである。就職は、ほとんどが県内であり、地域で活躍・貢献している。

また、高校生と社会人が一緒に学ぶ異世代交流型の共学講座では様々な相乗効果があり、地域における生涯学習の拠点となっている。

3 学校の現状と課題

本校の生徒は、概して素直であるが、様々な理由による不登校経験者や特別な支援を要する生徒、家庭に諸事情を抱える生徒などが混在している。そのため学力や学習意欲、進路意識、価値観、生活習慣、コミュニケーション能力等において、その実態は多様である。

すべての生徒に、将来たくましく未来を拓き、社会で輝く人材となるための力として、「自ら学び考える力・自律し自立する力・他者と共生する力・健やかな心身」の育成を図り、将来にわたって自分らしく、たくましく自立していくための支援を推進していきたい。そのために、多様なニーズに応える教育課程の編成を工夫するとともに、少人数授業や習熟度別授業、ICT活用も含めた授業のユニバーサルデザイン化を継続し、意見や質問を発信しやすい授業づくりを推進する。また、進路希望実現に向けた支援（JSTとの連携・キャリアアッププロジェクト）を継続し、総合的な探究の時間やインターンシップなどを通して生きる力を育てる。さらに、生徒主体の学校行事や部活動、ボランティア活動などを通して、自他を理解し、人との関わりを学ぶ機会の創出を工夫し、卒業後の自立につながる経験を積ませるとともに、丁寧な個別面談やSC、SSWと連携したきめ細やかな教育相談を推進し、個に応じた教育支援を充実させる。

また、生涯学習校として社会人と共に学ぶ授業や18歳成人を見据えた主権者教育を通して、すべての生徒が将来、生き生きと自分らしく暮らせるウェルビーイングの向上を目指していきたい。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方針及び計画	
1	学習活動	目 標	各教科、科目において、生徒一人一人の主体的な学びの姿勢と学習課題の解決に向けた思考力、判断力、表現力を育成し、学習内容の確実な習熟を目指す。
	重点 1	計 画	① 授業における安心感を向上させるため、授業のユニバーサル化の継続や I C T機器の活用、互見授業や校内外研修などにより生徒主体のわかりやすい授業と質問や意見しやすい雰囲気作りを図るとともに、学習に対する不安感を払拭できるよう授業環境改善を推進する。 ② 生徒の多様な学習意欲・習熟度を把握し、学習指導法の改善に活かす。また、各教科間の連携を図りながら、生徒一人一人の能力・適性・進路希望等に応じた学修の機会を提供する。
2	学校生活	目 標	- 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会的な規範やマナーを遵守する態度を育成し、安全意識の高揚に努める。 - 心身に関する自己理解を深め、周囲とより良い人間関係づくりや積極的に心身の健康の保持増進に努めようとする能力・態度を育成し、日常生活に反映できるよう支援する。
	重点 2 重点 2	計 画	① 日常生活における基本的な生活習慣の確立や、社会生活のきまりについて、主体的に考えさせるよう努める。 ② 外部講師による安全教育や、車体検査・交通安全指導の実施、校内でのスマホ指導により、安全意識と適切なスマホ利用に対する意識の高揚を図るとともに、自転車等の乗車マナーやスマホ使用マナーの向上に努める。 ③ 外部の専門家による「心と体の健康講座」で学んだことを日常生活に反映することができるようにさせる。 ④ S C、S S W、巡回指導員、通級指導担当教員との連携を深め、個々の教育相談の充実を図り、職員の情報共有を進め、生徒理解に努める。
3	進路支援	目 標	将来の自己実現に向かって、意欲的に学校生活を送ろうとする態度を育成し、進路実現に向けてきめ細やかな指導を行う。
	重点 3	計 画	① 適切な進路目標を設定し、進路実現に必要な能力の育成を図るため、進路希望調査による実態把握と「進路ノート」を活用した進路情報の提供と蓄積を充実させる。また、キャリア探究や面談を通して自己理解や社会理解を深めるとともに、特別な支援が必要な生徒への配慮も含め、きめ細やかな支援を行う。 ② 職業研究、インターンシップ、進路特別講座等において、関連機関や就職支援教員（JST）との連携により、個々の職業観の育成を図る。

4	特別活動	目 標	・ 豊かな学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を培う。 ・ 読書に親しむ機会を増やし、豊かな人間性と情操を育てる。
	重点 4 重点 4	計 画	① 学校行事では、内容や運営方法を常に工夫し、生徒の満足度が高まるように努める。 ② 学校行事への積極的な参加と役割の自覚を促し、生徒が自主的な企画・運営を経験することで、一人一人に達成感を持たせる。 ③ 部活動では、生徒の積極的な加入と自主的な活動を促し、心身の成長につなげる。 ④ 多様な生徒のニーズに応じるため、購入希望図書の把握や生徒が直に図書に触れやすくする工夫を行う。生徒が図書館で時間を過ごしやすいう、本校図書館の学習環境や機能を充実させる。 ⑤ 生徒目線の企画や生徒主体の委員会活動、教科・HRとの連携により、読書習慣の定着を図り、図書館の有効な活用を進める。
5	その他 総合福祉科 学習活動 及び 保護者・地域との連携	目 標	・ 総合福祉科では、地域で活躍する人材の育成に向け、家庭・福祉分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得させることを目指す。 ・ 地域の施設との連絡を密にしながら、地域との連携や交流を推進する。
	重点 5	計 画	① 地域との福祉交流活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門技術者による講座を通して社会福祉への理解を深めさせる。また、将来の進路目標や自らの在り方生き方について考えさせる。 ② 進路目標を早期に確立させ、専門科目への意欲的な学習へ導き、生徒同士の学び合いや発表会を通して学習の達成感を持たせつつ基礎的な知識や技術の定着を図る。 ③ P T A、同窓会、地域諸団体等との連携を深めることで、学校行事やボランティア活動へ保護者・生徒が参加できるような環境づくりに努める。 ④ オープンハイスクールの実施や、ホームページ、フライヤー等を活用して、本校の教育活動を広く紹介する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 となみ野高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	①授業における安心感(心理的安全性)の向上	② ①に基づく授業環境改善の推進
現 状	- 基礎学力不足や不登校経験等から、学習や授業に対する苦手意識を持つ生徒が見られる。 - 上記等を原因として、学習・授業に対する不安感を有する生徒が見られる。	
達成目標	①生徒向け「学習・授業アンケート」で 「となみ野高校では、安心して授業を受ける ことができている」 と回答する生徒の割合 75%以上	②教員向け「互見授業アンケート」で 「授業時における生徒の安心感の向上に向 けて具体的な工夫をした」 と回答する教員の割合 80%以上
方 策	- 発言しやすい環境：授業において、「自分の思いを素直に口にしても大丈夫」「間違えても否定されない」という雰囲気を教師・生徒間で共有できるようにする。 - 助け合いの環境：わからないとき、困ったときに助けを求めやすく、かつ生徒同士や教師と一緒に課題解決に向けてサポートする雰囲気の醸成に向けて取り組む。 - 生徒の自己受容感の向上：生徒の発言・発表等に際し、対話の仕方を工夫し、生徒が自分の存在や考えが認められていると感じる雰囲気の醸成を図る。 - 無知を指摘しない環境：基礎知識等の欠如を、生徒同士が互いに指摘しない風土を醸成する。 - 取組状況の共有と体系化に向けて：互見授業等を通して、個々の教員の工夫・取り組みを共有し、授業時における生徒の安心感の醸成に向けて学校全体で取り組む体制を目指す。	

令和8年度 となみ野高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	① 安全意識の高揚、適切なスマホ利用に対する意識高揚	② 「心と体の健康講座」で学んだことを、日常生活に反映することができる
現 状	- 登下校時や休み時間にスマホを操作しながら移動する「ながらスマホ」の生徒が多く見られる。事故の被害者にも加害者にもなり得る状況である。生徒自身が「ながらスマホ」の危険性を十分に理解し、安全意識を高める必要がある。また、授業時間以外に「スマホ」が手放せない生徒が多くいる。「スマホ」の長時間利用による健康被害も周知しながら、校内での友人とのコミュニケーションの時間を大切にするように意識させたい。 - 年次ごとの心と体の健康講座を3～4回、全校生徒での共生社会講座を年1回、年次ごとの特別講座を年1～2回実施している。これらの講座で学んだことを、その時だけのものにせず、持続的に生徒の資質や能力を育てられるように、日常生活に反映できる方策を検討していく必要がある。また、講座への出席が難しい生徒にも配慮し、ST等での働きかけ・教室掲示や廊下掲示を工夫する必要がある。	
達成目標	① スマホ等適切利用に関するアンケートで、各 自の設定目標に対する自己評価において、 目標を達成した割合 昨年度の達成率89%以上	② 「心と体の健康講座」事後アンケートにおい て、「講座内容をふり返り、年次ごとの強化ポ イントを日常生活で意識することができた」と 回答した割合 80%以上
方 策	- 全校生徒対象の交通安全教室を実施し、「ながらスマホ」の危険性について理解を深めるとともに、命の大切さと交通ルール遵守への意識を高める。 - 自転車通学者に対しての車体検査で、ヘルメット着用の呼びかけを個別に行う。 - 事故を未然に防ぐため、日々の場面毎の声かけ、全校集会や年次集会等の様々な機会を通して普段の行動を振り返る場面を設け、安全意識の定着を図る。 - スマホに関する各自の目標を設定し、定期的なアンケート調査（スクリーンタイム調査含む）により生徒の実態を把握し、適切な利用意識の高揚を図る。 - 日々の場面毎の声かけ、ポスター掲示や動画、外部講師講座等を活用し、スマホの使用マナーや「デジタルデトックスの意義」について考えさせる。	

令和8年度 となみ野高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	適切な進路目標を設定し、進路実現に必要な能力の育成を図る	
現 状	・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持ってない生徒が見られる。 ・ 進路実現に必要な基礎学力および社会性が不足している生徒が見られる。 ・ 進路目標が多様であり、特別な支援を必要とする生徒も見られる。	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率 100%	② 1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次80%以上 2年次95%以上
方 策	・ 進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、上級学校・企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的に情報を蓄積することにより、目標とする進路を明確にする。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けるよう指導する。 ・ 基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの早期実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。さらに、進路決定者においても進学・就業意欲を継続させ、進路先への円滑な移行を目指す取り組みを行う。 ・ 特別な支援が必要な生徒には、年次をはじめ通級指導担当教員や保健厚生部と連携し、生徒の適性に十分配慮した指導・支援を行う。	

令和8年度 となみ野高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	① 学校行事への積極的な参加と達成感	② 図書館の有効な活用
現 状	・ 人とのコミュニケーションや集団活動そのものに苦手意識を持ち、学校行事への参加に消極的であったり、参加できなかったりする生徒が見られる。また、生徒一人一人への配慮がより必要となっている。 ・ 生活環境の変化や動画等のメディアの発達や普及等を背景に「活字離れ」が進んでいる。本や新聞、インターネット等の活字に親しむための支援が必要である。	
達成目標	① 主要学校行事の事後アンケートで、「積極的参加」「達成感」等の4件法評価を実施し、「よい」と回答した割合 90%以上	② 1年間の図書館等利用生徒数 延べ 480人以上 (生徒一人あたり約4回の利用を目標)
方 策	・ チャレンジデーⅠ・Ⅱ・Ⅲ、キャンパスフェスティバルへの積極的な参加を促す。 ・ 生徒会が主体となり、生徒の意見が反映される行事の企画・運営を行う。 ・ 生徒自身の学校行事における役割の自覚を促し、一人一人が達成感を持てるような配慮や働きかけを行う。	・ 生徒が図書館で時間を過ごしたり、足を運びやすいような仕掛けや工夫を行う。 ・ 生徒の多様なニーズに応じた図書を準備したり、生徒が直に図書に触れたりしやすくする工夫を行う。 ・ 図書の展示方法を工夫したり教養講座を行ったりして図書への興味関心を高める。

令和8年度 となみ野高等学校アクションプラン			－5－
重点項目	その他：総合福祉科学習指導		
重点課題	専門科目への意欲的な学習		
現 状	「地域で活躍する人材の育成」を指導目標としている。日々の授業の中で衣食住や福祉の知識・技術を定着させたり、家庭・地域生活や福祉のあり方を考えたりすることに努力を要する生徒が見られる。		
達成目標	① 教科・家庭の学習・実習を通して、自分の生活をよりよくするための知識・技術が身についた生徒の割合 70%以上	② 授業及び地域との交流活動を通じて福祉への興味関心が深まった生徒の割合 70%以上	
方 策	・ 各種検定に挑戦することで、家庭分野における基礎的な知識・技術を身に付ける。 ・ 日々の授業で学習した専門科目の知識・技術を地域での交流活動に生かすことで、今後の専門科目の学習に意欲的に取り組めるようにする。 ・ 活動報告会を実施し、今後の専門科目への意欲向上や技術向上に役立てる。 ・ 校外での活動を意識した挨拶・礼法指導を授業内で行う。 ・ 個別の配慮を要する生徒に対する指導について工夫する。		